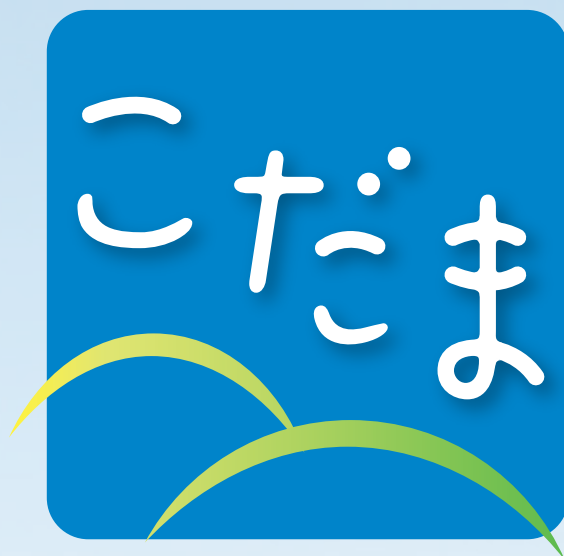


地域の皆様と共に 60年・・・

医療法人 亀岡病院

Kameoka Hospital 60th Anniversary

60周年
特別号



2016 春 vol.23

- 60周年記念対談 p2
- 部署紹介 p11
- 亀岡病院座談会 p6
- 亀岡病院の歩み p23



医療法人 **亀岡病院**
大槻 秧司 会長

対 × 談

亀岡市長
桂川 孝裕 市長

地域医療と介護・福祉へ貢献 ～ 60年の歩み ～

地域医療に根差し医療・介護・福祉に貢献してきた亀岡病院が、今年、60年の節目の年を迎えました。

1月18日に昨年11月亀岡市長に就任された桂川孝裕市長を迎え、
亀岡病院会長の大槻秧司とともに亀岡市の今と将来への思いを語り合いました。

**桂川市長と亀岡病院の役割に
大きな期待**

大槻 本日は公務多忙のなか、亀岡病院設立60周年の記念誌のために桂川亀岡市長にはお越しいただきましてありがとうございます。また、第7代目の市長にご就任されましたことにつきましても、改めてお祝いを申し上げます。はつらつとした若い視線で、夢のある亀岡市を築いていただけるものと確信しております。現に、亀岡市役所へ伺いまして、従来とは違うやうな気溢れた雰囲気を感じられます。亀岡市も亀岡市立病院を運営されており、桂川市長も病院経営に直接関わっております。座談を通じて、当院へのアドバイスをいただき、今後の両病院の発展の一助になればと思っております。

桂川 国政の動きなどを見ていて、新しい時代を迎えていると思えますので、歴代の市長さんとは、また違う観点から行政に携わっていきたいと考えています。その時代に即した取り組みをしないとイケませんし、行政も変わっていかないとイケません。役所の雰囲気や職員の意識も変えていきたいと思います。

大槻 桂川市長は亀岡市議会にもおられたし、府議会議員も務められ



亀岡市長 桂川 孝裕
[かつらがわ たかひろ]

- 1985年 東京農業大学 農学部(現・地域環境科学部)造園学科卒業
京都府教員・京都府立農芸高等学校に赴任
- 1987年 財団法人亀岡市都市緑花協会へ出向
- 1988年 亀岡市役所職員に採用、都市計画課に配属
- 1989年 (社)亀岡青年会議所活動に取り組み
- 1993年 松下政経塾京都政経塾2期生
- 1994年 亀岡市都市緑花協会事務局長に就任
- 1995年 西国21番 穴太寺 宗教法人穴太寺責任役員就任
- 1999年 日本ハンギングバスケット協会 理事就任
- 2003年 亀岡市立普我部小学校PTA会長
亀岡市議会議員初当選(トップ当選)
・建設常任委員長
・議員定数検討特別委員長
- 2004年 亀岡市PTA連絡協議会副会長
花と緑の区市町村議会議員連盟発起人代表・幹事
- 2007年 任期満了により亀岡市議会議員退任
京都府議会議員当選
京都創生フォーラム会派 設立(京都府議会32年ぶりの新会派誕生)
- 2008年 建設交通常任委員会
- 2011年 京都府議会議員2期目当選
京都府議会自由民主党議員団に所属
- 2014年 建設交通常任委員会委員長
- 2015年 任期満了により京都府議会議員退任
徳島文理大学非常勤講師
第7代亀岡市長就任

ており、まさに満を持して市長として市民の先頭に立たれたわけですから、期待も大きいものがあります。それに応えるように、様々な新しい事業展開も実施されています。

桂川 私は、亀岡市民になって今年で31年目を迎え、家族とともにこの地に骨を埋める心構えを決めています。市民の皆様にも、何を、どうお返り組んでいこうかと考えています。

地域医療に根差し貢献する 亀岡病院

大槻 私の父(大槻嘉男)が昭和6年に旅籠町で大槻病院を開業し、昭和18年に大槻病院となりました。父は京都府議会議員の後、昭和26年に亀岡町長に当選、町村合併で亀岡市

が発足した昭和30年初代の市長に就任しました。その翌年の31年に医療法人亀岡病院がスタートしたわけです。亀岡市となっても、市立病院もないやんか、盲腸(虫垂炎)の手術もできるところがないやんか、というのが住民の声でした。当時、市立病院をつくる財政状況でなく、そこで父は自分の大槻病院を基盤にして、医療法人亀岡病院をつくったわけです。これには京都府立医科大学から、内科、外科医の派遣をしていただきました。当時は救急車もなく、外傷患者は警察署のジープで搬送されてくるようなことでした。

桂川 市長の執務室に、大槻会長の父さんが初代市長をしてもらった時の写真が飾られています。医師として、また政治家としても大変な時期の亀岡を支えて発展の礎を築いて

いただきました。大槻病院という開業医だったのを、亀岡市のために自らの財産を削ってまで専門医師を招いていただき、ご苦労も多かったことでしょう。大槻会長は当時医師だったのですか。

大槻 私は昭和31年に京都府立医科大学を卒業し、病院発足当時は京都第二日赤病院でインターンをしていました。勤務が終わった夜には病院を手伝っていました。完全に亀岡病院に勤務したのは昭和39年、前の東京オリンピックの年です。病院は亀岡市に一つ、交通外傷からすべての急患まで何でも診ていました。

変貌する亀岡市

桂川 当時の国鉄亀岡駅など現在とは雲泥の差で、周囲はほとんど田

圃であったと聞いております。大槻会長は昭和39年に亀岡病院に帰って来られたとのことですが、私はその前年の昭和38年に岐阜県で産まれました。亀岡市制発足時は人口2万人強でしたが、今では9万1千人の都市となりましたし、亀岡は本当に素晴らしい街だと思っています。JRの複線電化や京都縦貫自動車道の全面開通など、利便性が非常に高くなってきており、私どもと市民の皆さんが一体となって様々な取り組みを展開していけば、亀岡市の今後の発展は間違いありません。

大槻 市長のおっしゃる通り、交通アクセスが整備され、京都市はもちろん阪神方面、丹後へも非常に便利になりました。自然環境にも恵まれており、これから亀岡市は桂川市長のもと飛躍的に発展し、周囲も羨むような市になると期待に胸を躍らせています。

亀岡市立病院との連携密に

大槻 平成の初め頃だったと思いますが、各地区の「亀岡市政懇談会」で「市立病院が欲しい」という要望が出されました。医師会では、病院運営の難しさを危惧していましたが、市民の皆様が強い要望で、亀岡市立病院の設立が決定致しました。病床規



制の関係で100床でスタートということになりました。当時の市立病院に対する市民委員会での、市民の要望は「いつでも、何でも診てくれる病院」でしたが、これを少しでも多くかなえるために、救急を受ける急性期病院ということになりました。

桂川 私は当時、亀岡市の職員でしたが、亀岡病院とあたご病院（現亀岡シミズ病院）、ムツミ病院、公立南丹病院（南丹市八木町）がありました。高速道路など交通の便も少しずつ良くなりつつあって、洛西地域での医療機関での受診も可能だったことから、行政としても病院を持つのは大変との思いがあったのは事実です。田中市長、栗山市長など3代にわたって亀岡市立病院が出来上がったのです。大槻会長が医師会長や役員をしておられ、建設に関わっていたていており、また、病病連携や機能分担などでも医師会の取りまとめに苦勞をいただきました。今、市民の

負担を少しでも減らすため、また、市民の皆さんの健康と生命維持への施策を始めているところです。病院機能だけでなく、介護、福祉の面でも亀岡病院とはもっと緊密な連携をしていかないといけないと思っています。

大槻 現在の亀岡市立病院のベッド数100床では、市民のニーズを全て受け止めるのはなかなか難しい。市民の安心を担保するためには、「医療の情報室」といった市民からの相談や、病気や健康のことで困難があった時対処するシステムの構築を計画しました。いろいろ困難もあったのですが、現在「亀岡市地域医療情報センター」として活動中であります。

桂川 急性期、慢性期の病院機能の違いはありますが、亀岡病院は亀岡の歴史とともに市民の健康増進のために尽くして来られました。また、大槻会長をはじめ病院スタッフが、総力を挙げて医療技術や機器の充実も図っておられ、これからも市立

病院とともに手を携え、ご支援をいただきたいと願っております。地域医療連携も積極的に取り組んでまいりたいと考えております。

大槻 病院や福祉、介護施設にとつて何が一番大切かと言いますと『人』です。ドクターだけでは医療は成り立ちませんし、術後の回復期、慢性期から在宅生活への復帰アドバイスまで、綿密なトレーニングと計画を実践していくのも全て人です。医師、看護師、セラピスト、また事務的な面での支えなどチーム医療でなければ一歩も前へ進みません。院内カンファランスなどでも、患者対応をはじめ、日常のスタッフ個々の言動や小さなミスでも見逃さないために真剣に討議をしています。

進む超高齢化に心の対応

桂川 高齢化は亀岡市でも顕著に表れています。市の取り組みの一環として「健康寿命をいかにして延ばすか」を課題に挙げています。その一例として「予防医学」の推進を掲げています。男女平均寿命が84歳と世界一の長寿国とはいえ、健康寿命は女性で74歳、男性は71歳であり、やはり寝たきりや要介護の高齢者が増えているのも事実です。元気な高齢者を増やすた

めには、健康運動場などハード面とともに、継続的な指導の実践もしなければいけません。糖尿病患者さんへの人工透析移行も問題ですので、市民の皆さんの生活習慣の改善にどう取り組むべきか、こういった点については亀岡病院の福祉施設を含めたご支援がなければ前へ進みませんので、よろしく願います。

大槻 透析患者の増加は今がピークといわれています。2014年12月の日本透析医学会の統計では、全国の透析患者は約32万人でした。原因の第1位は糖尿病性腎症で約44%、ほかには慢性腎炎や腎硬化症と続きます。糖尿病は加齢とともに増加し、生活習慣病として大きな問題です。私どもでも病診連携や患者・家族の方への広報などを通じて「健康教育」を実施しています。また、糖尿病の合併症では市長もおっしゃる通り、人工透析へ移行する腎機能低下が大きな問題です。糖尿病教室や日常診療を通じて、糖尿病の知識を普及し、早期治療とその継続で合併症予防に努めております。私どもの理念は「亀岡市民のための亀岡市民の病院」ですので、亀岡市立病院などとも役割を分担しながら医療と福祉分野に邁進してまいります。

桂川 亀岡市は周囲を山と緑に囲

まれ、保津川へ注ぐ河川など、これだけ自然に恵まれたところはありません。水道水も日本指折りの美味しい水です。朝、役所へ出勤するのにジョギングやウォーキングをされておられる市民が多いのに驚きます。それだけ、健康に留意されている証拠です。将来、亀岡市へ他府県から移住される高齢の方も増えることが予想されますので、健康維持への取り組みの継続がさらに大切になってくると思っています。

大槻 亀岡病院は平成25年の移転にともない108床に減床し、元の病院を90床の老人保健施設としました。その他13の介護施設、事業所等を運営しております。国の介護保険施策が次々変わってきており、そんな中でも入所者や家族に負担を強いるのは難しい状況ですので、工夫と運営努力を続けていかねばならないものと考えています。

気持ちの切り替えも大切

体が開催されるに際して亀岡市に運動公園を造る技術者として私に白羽の矢が立って、街づくりにも関心があり市役所職員になりました。運動公園の設計や亀岡市役所周辺の整備、大学周辺の設計などやったのですが、もっと大局的な見地からの仕事をさせていたいただきたいの思いから、市議会議員など政治を志しました。私は、亀岡病院の発展と時を同じくして成長してきたようですが、亀岡市制60周年の記念の年に市長に就任させていただいたのは、本当に幸せなことです。

大槻 市長は園芸だけでなく趣味もいろいろやっておられますね。私は若い時の趣味も続けられず絵や墨字に興味を持つていくくらいです。この部屋にも額が掛かっていますが、これは：龍潭寺の村田弘道氏、私の亀岡高校の同級生ですが、私のために書いてくれました。「抜苦与楽」苦しみを取り去り、楽を与うという薬師



如来の本願です。医の原点は患者さんの苦痛を取ることにありと、診療の際には常に心がけておりました。こちらの絵は薬師如来で有名な奈良の薬師寺を画いたリトグラフですが、平山郁夫画伯のものです。

桂川 私は、大学時代からずっと茶道を学んでいます。造園家は昔から千利休や古田織部もそうですが、茶人でもあり作庭師や文人でもありました。華道は池坊です。実は私の祖父が華道の師範でしたから子供の頃からやっていて、おかげで教授(師範)の免許もとらせていただき、亀岡華道協会の会長も務めさせてもらっています。

地産地消への試み

大槻 何としても亀岡産の野菜を病院給食に使いたいと思い、今回「たわわ朝霧」さんや、給食をお願いしている「マルタマフーズ」さんに無理を言っただけで介護分野の200食で実施しました。

た。通常高価で使えないのですが「蕪蒸し」を提供しまして、皆様に大変喜んでいただきました。「地産地消」を増やしていきたいと思っています。

桂川 小学校の給食でも地元産野菜を使うべく施策を推進中で、米飯給食もかなり普及しつつあります。

将来に向かって

桂川 インターネットで「桂川たかひろ」で検索してもらったら出てきますが、「かめおか・未来・チャレンジビジョン」として「選ばれるまち」「住み続けたいまち」「新たな亀岡市の実現」を3本柱に掲げて挑戦しようと思っています。年齢を重ねても安心して暮らし続けるには医療や介護の支えがなければなりません。亀岡市立病院だけでは応えることは不可能ですので、亀岡病院のご指導とご支援をよろしくお願いいたします。

大槻 亀岡市と周辺地域の皆様方への医療や介護に関してはもともと貢献できるように、また、若い世代や高齢者にも優しい亀岡市の施策へのお手伝いや、病診連携の推進への協働、治療や介護のために頼ってこられた方々に安全、安心で完結できるように体制を整えてまいりたいと職員一同決意を新たにしています。

座談会

亀岡病院の
病院づくり

第1部・第2部



808万人といわれる団塊の世代全員が、2025年に後期高齢者となる「2025年問題」が話題になっています。私達、医療・介護・福祉に携わる者は、患者様に健康を回復して自宅へ戻っていただくことが責務であると考えています。今回は、2025年に向けて亀岡病院が目指すべき在り方について話し合います。

第1部 座談会
参加者紹介

〈後列左から〉リハビリテーション科 主任 須田 泰正、地域連携室長 政川 孝子、病棟師長 西原 さえ子、病棟師長 藤原 美保
〈前列左から〉院 長 細川 了平、理事長 大槻 克一、看護部長 下村 加代子

亀岡病院の
病院づくり

第1部

◎テーマ

病院から在宅へ

大槻 団塊の世代が2025年には

全て75歳以上の後期高齢者になります。その時期に向けて、国は地域包括ケアシステムを推し進めようという方向を示しています。亀岡病院として今後どのような病院づくりをしていくのか、患者さんへの対応と日々の実践が問われています。地域包括ケアシステムの中の大切な流れは、患者さんが健康を取り戻して病院から自宅に帰っていただくことです。こういった取り組みについて、各部門の責任者と一緒に話し合います。

細川 当院では、患者さんへの治療方針や退院後について、入院時に詳細に説明してから、入院いただいております。最初は3階の病棟に入院していただき、種々の検査の後、患者さんの病態を把握して必要な治療を行います。状態が落ち着いた後、必要な方は、4階の医療療養型病棟へ移っていただいております。その時点で在宅復帰、もしくは施設などへの入所が可能な場合でも、追加のリハビリや

他の治療が必要な時は、行っています。

看護部長や各病棟の看護師長、地域医療連携室のスタッフの皆さんと、毎朝、カンファレンスを開いて、入院等との相談をしています。各病棟の回診を行い、患者さんのみならず、ご家族の方、医師、看護師、地域医療連携のスタッフ、リハビリのスタッフを交えて相談して治療を進めています。こういったルーティンワークを確実に実践していけば、患者さんのニーズに合った診療を進めていくことができます。

下村 従来の亀岡病院は、入院すれば長期間対応してもらえるとといったイメージがありました。今はそのような訳にはいなくなりました。在宅へ復帰し住み慣れた地域で生活していただくために、病棟でも色々な取り組みを行っています。医師、看護





師、リハビリ担当者、地域連携担当者、ケアマネジャー・訪問看護師などの職種で連携を取りながら、在宅での生活で不足する部分を補えるようにしています。また、今年度から看護部の新しい取り組みとして、スタッフのローテーション研修を行っています。病棟看護師が法人内の老健と訪問看護ステーションで1日体験実習をします。これによって病棟から退院される患者様の準備として何が必要なのかを身を持って知ることができるようになりました。法人内に沢山の居宅・介護部門を併設している強みが更に生かされるよう連携を強化していきたいと思

います。

西原 3階病棟は、亀岡病院の外来患者様や関連施設の利用者様、そして近隣の診療所などからの紹介患者様をできるだけ受け入れていく方向で毎朝ベッドコントロールを行っています。当院で治療を進めた後に、いかに在宅復帰していただくかを第一に考えています。地域

包括ケア病床に関しては、現在8床でシミュレーションを行っています。今はまだシミュレーション段階ですが、入院時から在宅復帰を考慮しながら、どのようにベッドコントロールしていくか、どの段階で医療療養病棟へ移っていたり、だくかななどを多職種で意見を出し合いながら進めています。

藤原 4階の医療療養病棟は、3階病棟で急性期の治療を終えた後、引き続き医療の提供が必要な患者様・通院困難な透析患者様・在宅復帰困難な患者様が対象の病棟です。

この病棟では、厚生労働省の規定に従い医療区分・ADL自立度を毎日評価しています。この中で特に、医療区分1の患者様には早期に在宅復帰して頂けるように、患者様・ご家族様・主治医・看護師・リハビリスタッフ

フ・ソーシャルワーカー・ケアマネジャー等、在宅復帰に必要なメンバーが参加しカンファレンスを行うことで、ご自宅もしくは地域の施設への退院が増えてきています。

今後も患者様・ご家族様の思いを聞きながら、チームで連携をとり在宅復帰が出来る様援助していきたいと思っています。



須田 3階、4階病棟ともに我々リハビリテーション科のスタッフが担当

しています。入院初期の段階で患者様がどの程度の機能があるのか、日頃の生活状況はどうであったのかを連携室と情報収集しリハビリテーションの目標設定をします。さらに朝のカンファレンスや病棟回診によって多職種で今後の方向性を共通認識し、できる限り在宅復帰の可能性を模索した提案をするようにしています。病棟カンファレンスにも参加し始め、患者様にとって質の高いリハビリテーションを提供できるように取り組んでいます。

政川 地域連携室ではMSW・社会

福祉士等の3人体制で業務にあたっています。前方支援と後方支援に分かれそれぞれの強化を図って、前方支援では診療の予約・入院の相談等、後方支援では入院時から退院に向けて地域の関係機関と連携し、患者様が安心して在宅へ戻れるよう、また、施設での生活ができるよう取り組んでいます。また、地域包括ケアシステムに向けても、入院期間の調整を院長はじめ、看護部長・病棟師長・リハビリ主任・地域連携室にて毎朝ベッドのコントロールをしている事でスムーズに行えていると思います。

大槻 亀岡病院は以前から地域に根差した病院を目指してきましたが、特に地域包括ケアシステムでは、地域全体で患者さんの治療・介護を推し進めていくという方針でもあり、当院では各部門を挙げて地域包括ケアシステムを確立していきたいと思えます。また、高齢者が増加することで問題になるのが認知症です。当院では認知症及び神経内科を専門とする森医師が外来診療を行っており、認知症に対して積極的に取り組んでいます。今後も亀岡病院は、地域包括ケアシステムの構築や、認知症に対応する取り組みに尽力していきたいと思えます。

◎テーマ

在宅部門の 受け入れについて



前川 亀岡市地域包括支援センター
かめおかは、平成18年度より地域の
高齢者の総合相談窓口として設置さ
れております。

設置から約10年、今では皆様のおか
げで良い関係を築きながら活動をさ
せて頂いております。

当センターは団塊の世代が75歳以上
となる2025年を用途に、重度な
状態になっても住み慣れた地域で自
分らしい暮らしを人生の最後まで続
けることができるよう、医療、介護、
福祉サービスのみならず近隣住民の
助け合いなどの地域力を含めたあら
ゆる社会資源との連携を自助・互助・
共助・公助の組み合わせにより包括
的に確保される体制（地域包括ケア）
の構築に大きく貢献することを目指
しております。

一島 病院から在宅へ変わった際、ど

うしても病院へ来られない方は通所で
デイケアを、通所も通院も困難な方
には訪問リハビリを行っています。入
院中は、亀岡病院のリハビリテーショ
ン部門との情報共有は非常にいいや
すいと思いますが、療法士だけではな
かなかうまくいかず、訪問看護や通
所介護など、さまざまなデイケアの
スタッフとの連携が必要だと思ってい
ます。

吉井 訪問看護ステーションは、住み
慣れた自宅で安心して生活して頂け
るよう利用者様やご家族の気持ちを
尊重したケアや看護ができるように
対応しています。家族の方は、最期を
在宅で看取することに満足されますが、
看護師だけでフォローできるものでも
なく、主治医やケアマネ、ヘルパーな
ど、多職種連携してサポートしてい
ます。24時間、連絡・訪問体制を取っ
ていますので、不安なく過ごしてい
ただけるよう取り組んでいきたいと思っ
ています。

前川 訪問介護は、利用者様への総
合的な生活支援、生活援助をさせて
もらいます。調理、買い物、掃除など
の生活的な部分と、おむつ交換、入
浴・食事介助などの身体的な介護と
分かれています。全てを含めたもの
が訪問介護の専門分野であると思っ

ています。利用者様の生活に深く関
わることで、利用者様の変化に気付
いた場合、必ず専門的な訪問看護師
や医師、ケアマネジャーなどと連携す
るようにしています。

大槻 今後、問題になってくる認知
症は、認知症専門医による外来を開
設して、認知症の診断、治療に取り
組んでいます。今後、居宅部門や介
護部門も含む医療法人亀岡病院とし
て積極的に取り組んでいきたいと思っ
ています。

中村 一昨年できたグループホームに
は現在9人の入所者がおられますが、
病院に認知症外来ができたことで画
像診断を含めた詳しい診断が受けら
れるようになり、非常に心強く思い
ます。今まで物忘れ外来は亀岡市内
になく、亀岡病院にできたことで、地
域に一層の貢献ができていたので、な
いかと思います。

大槻 後期高齢者が急激に増加する
状況になってくると、入院できずに自
宅で看取ったり、施設に入れずに自
宅で看取るといったケースが多くな
ると予想されています。

中村 最近、がんで余命いくばくも
無いという方が退院されるという相
談が増えてきています。がんという病
気だけでなく、数年間、在宅で介護



第2部 座談会
参加者紹介

〈後列左から〉 老健はたごまちリハビリテーション科 科長 一島 康樹、
訪問看護管理者 吉井 かおり、訪問介護管理者 前川 恭子、
地域包括支援管理者 前川 誠

〈前列左から〉 院長 細川 了平、理事長 大槻 克一、居宅介護事業部長 中村 隆子

を受けている方がその人らしい生き方をまっとうされ、その最期を看取することも大切で、リハビリや訪問看護、介護も一緒になって学びながら、支えていければと思っています。

吉井 がん末期のかたでも最期は家

でという方が非常に増えています。数週間を自宅で過ごす方、家族が不安になって病院へ戻る方さまざまですが、亀岡病院では開業医の先生と連携して受けていただくという体制を取っているため、不安が強い場合

は病院で対応し、自宅の場合は、患者さんの要望に沿ったフォローをしています。

前川 私たちは、家族ができない介護不足な部分を補うような形でお世話をさせていただき、家族の方に少しでもほっとした時間を持っていただければと思っています。家族とのコミュニケーションをとって、鬱々とした気持ちを少しでも話していただければ

大槻 亀岡病院でも各ドクターが訪問診療を行ったり、訪問診療をされている開業医の先生と連携を組んで、病院で最終的な治療をさせていただいたりして、亀岡地域の在宅医療を充実させるように努力しています。

細川 関連の開業医の先生方が訪問診療されている患者さんが、状態を悪くされた時、極力スムーズな形で入院していただくことを心がけています。また、われわれ病院の医師も、2025年問題として高齢患者さんが増えていく時代において、訪問診療を積極的に進めることを計画し、昨年より毎日当番を決めて、訪問診療に出かけています。また24時間オンコール体制を敷いて、急変などに備え、医師が出動できる体制も構築しています。

中村 最近、地域連携室を窓口に自宅へ帰られる時に、非常に綿密に情報交換が行われて連携ができるようになってきたなど実感しています。在宅部門や老健はたごまち・病院の各部門が独立するのではなく、お互いに連携していくことが地域貢献につながると思っています。

大槻 「地域のために、地域に住んでおられる皆さんのために」という目線で、医療法人亀岡病院は今後も医療および介護に取り組んでいきたいと思えます。



亀岡病院と併設施設の 部署紹介

テーマ

『現状と今後について』

28部署からのコメントと写真を皆さんに紹介致します。

地域の皆様に信頼される病院を目指します

医 局

◎地域医療に貢献します

本年4月、亀岡病院は、創立60周年を迎えました。人間で言えば「還暦」、新しく生まれ変わる年に当たります。3年前病院も新しくなり、電子カルテやMRI装置も、新たに導入しました。我々診療部も、心を新たにして、地域の皆様に信頼される病院を目指して、日々、診療に励む所存です。

次の60年も、亀岡病院を宜しく願っています。



安心・安全な入院生活を送っていただけるよう努めます

3 F 病棟



◎法人内の多部門と連携します

3階病棟は、入院治療が必要となった患者様を受け入れる病棟です。亀岡病院の外来患者様をはじめ、地域の施設、近隣の医院からの紹介患者様を受け入れていけるように、毎日多職種チームでベッドコントロールを行っています。当院で治療を行いながら、患者様が安心して在宅復帰できることを第一に考えています。住み慣れた場所へ帰っていただけるように、医局、地域連携室、リハビリスタッフなどの多職種とともに意見交換し、どのような支援、調整が必要かを検討し、病院だけでなく、当法人の介護・居宅支援部門とも連携しながら進めています。

患者様・ご家族様が安心して療養して頂ける看護・介護を目指しています

4 F 病棟

◎住み慣れた場所への復帰を支援します

医療療養病棟では、3階病棟で急性期の治療を終えた後、引き続き医療の提供が必要な患者様・在宅復帰に向けたリハビリ期の患者様や入院治療が必要な透析患者様の受け入れをしています。

患者様にとっての希望は、住み慣れた自宅へ退院が出来る事だと思います。しかし患者様の思いだけでは自宅退院は困難です。自宅退院を可能にするためには、ご家族様の支え・社会の支援が必要不可欠です。ご家族様の介護負担・不安の軽減の為、多部門との連携を強化し、患者様が望まれるご自宅退院を可能に出来るようチームカンファレンスを充実させています。また、長期療養が必要な患者様・ご家族様には安心して療養して頂けるよう、今後もスタッフ一同努力していきます。



地域のみなさまが親しみやすい外来であるように努めます

外 来

◎安心して受診していただける外来を目指して

昨年は、4月から新しく院長そして医師を迎え、新体制でスタートしました。6月からはMRIの導入、そして認知症外来、腎不全外来およびシャント造設の手術等、新たに始まったことが大変多く、私達には専門的な知識やスキルが必要となり、求められる事が多くあった年でもありました。

今後は、さらなる知識・技術の習得に努め、また来院された患者様の診察をスムーズに終了するために、外来スタッフ間のみならず医事課やすべてのコメディカル間の連携を深めて、より良い診療が出来るように努めていきます。



低いX線量で精度の高い画像を提供、被ばくの少ない安全な検査の実施をこころがけます

放射線科

◎病気の早期発見に貢献したい

放射線科では、一般撮影や骨密度測定のほか、1.5テスラMRI装置による心臓MR・血管MR、64列MDCT装置による心臓造影CT・血管造影CT、ワークステーションによる心機能解析や内臓脂肪面積の測定、X線透視装置による嚥下造影検査など、幅広く検査を行っています。

特に心臓MR、心臓CTは画像診断分野で注目度が高く、他院からも検査依頼をお受けしています。

わたしたち診療放射線技師は、検査をより充実させ、地域の皆様のご要望に応えられるよう研鑽に励みます。



迅速かつ正確な検査で診療支援を行うチーム医療の一員として診療に貢献する

臨床検査科



◎これからの臨床検査技師

生理検査業務、検体検査は4人体制で行っています。質の高い検査やチーム医療（感染やNSTなど）の提供のために知識の習得を図るようにしています。

これからは、検査結果の説明ができる臨床検査技師を目指し、患者様に満足していただけることや、医師の業務負担が軽減されるように努めなければならない。また、検体採取など業務拡大も取り組んでいく必要があるでしょう。



患者様中心の医療が円滑に遂行できる事をお手伝いしていきます

地域連携室



◎地域の医療・介護施設と相互理解を深めます

平成19年5月から病診・病病連携を推進するために地域連携室が開設されました。

前方連携業務として、紹介患者様をスムーズに受け入れするための調整や地域医療機関の先生方と当院を繋ぐ連携窓口として、後方支援業務としては社会福祉士・MSWが入院中の患者様やご家族様からの医療的・社会的・経済的な支援の相談に応じ、助言・解決・調整を行い安心して療養生活が過ごせるように支援の役割を担っています。

院内・院外での関係調整や情報収集等により一層、医師・看護師・多職種との連携を密に地域の医療機関の先生に安心・信頼していただける地域連携室を目指します。

リハビリテーションの立場から医療と介護、在宅へと繋ぐ支援

リハビリテーション科



◎医療から地域リハビリテーションへ向けて

リハビリテーション科は、外来および入院の患者様のリハビリテーションを提供することが主な業務です。

基本的な方針としては患者様の心身機能、生活機能を評価し、ご家族様の思いを含めて目標設定を多職種で行い、実現に向けてリハビリテーションを進めていきます。

特に在宅復帰への退院支援を行う際はコメディカルで情報共有し、院内での取り組みが在宅生活に繋がるよう、積極的に外部機関とも連携をとるようにしています。

医薬品が安全に、適正に使用されるように確認しながら調剤しています

薬剤部

◎退院後の良好な服薬を目指して

現在4名の薬剤師が勤務しており、入院患者様の内服薬、外用薬、注射薬の調剤を行っています。また、クリーンベンチを用いて無菌的に注射薬の調製を行うことにより、清潔な調剤が可能となっています。

入院又は訪問診療の患者様には服薬指導を実施しており、薬の効果、副作用、飲み方、使用方法、相互作用（飲み合わせ）などについての指導・説明にも力を入れています。



栄養管理・食事療養・栄養指導が患者様の病状改善に繋がるよう努めていきます

栄養科

◎有意義な栄養管理をめざして

栄養が十分でないと病気の治癒・体力の回復に大きな支障をきたします。そのため、当院では、医師を中心に看護師・薬剤師等と連携をとりながら個々の患者様の栄養管理・食事療養を行い、できるだけ早く病状を改善して頂けるよう努めております。また、治療食となると良い印象が無いかもしれませんが、「おいしい」とも言って頂けるよう日々、努力しています。

栄養指導では、患者様の生活に合わせ、その立場に立った指導を心がけていきたいと思っております。



患者様の意志を尊重し安全で安心・安定した満足できる看護・治療を提供する

透析センター

◎平成24年、ベッド数2床・個人機により 血液透析療法を開始

平成25年4月に新規20床の透析センターを開設、現在の古世町に移転しました。すべての透析コンソールで最新の血液濾過透析（オンラインHDF）が実施できます。これにより質の高い透析治療が可能です。送迎運用により患者様も増員、地域の医療機関や福祉施設からの紹介患者様も増えています。高齢者及び認知症を伴う患者様の受け入れ増加、どのような状況に置かれても最後までサポート出来る体制を整備し患者様やご家族様だけでなく地域の医療機関との連携を図り、仕事に緊張感と向上心を持ち笑顔が絶えない明るい治療環境を創ることを目指します。



患者様にとって親切・丁寧な対応を目指して

医事部



◎病院の最初の役目を大切に

病院玄関を入るとすぐ目の前に受付と会計窓口があります。ここが私たちの部署となります。亀岡病院に来院されたら一番最初にお会いするところが医事課であり、ついでに病院の顔としての最初の役目をもっています。

直接的な治療には携わっていませんが、患者様に一番近い私達だからこそ出来る出来ないかを考え、負担を少しでも軽減することが出来るよう取り組んでいます。

不安なことや気になることがあれば、ぜひお声をかけてください。

法人理念を目指して

総務部



◎連携を密に

総務・経理・営繕等業務は、かなり幅広い業務を行っており、法人全体を運営するための重要な仕事だと思っています。すべての部署と関わりをもつ部署です。今後もこれまで以上に各部署との連携をより一層密にし、法人全体の発展に、努力し取り組んでいきたいと思っています。

患者様送迎等さまざまな業務では、細心の注意を払って、患者様・ご家族様に安心を提供していけるように努力しております。環境整備についてはテーエスケーさんに委託して院内の清掃をお願いしています。何か施設内でお気づきの点などがありましたら、気軽にお声をおかけください。

より良い地域社会を目指して

地域包括支援センターかめおか

◎皆様と共に

「亀岡市地域包括支援センターかめおか」は、平成18年度に亀岡市より業務を委託され、地域における「地域包括ケアシステム」、「高齢者の総合相談窓口」の中核機関となるべく、主任介護支援専門員、保健師（経験のある看護師）、社会福祉士を配置しスタートしました。

月日が流れるのは早いもので約10年が経過し、日々業務に邁進しております。これもひとえに地域住民の皆様ならびに関係機関の方々のご理解とご協力の賜物でございます。一同、心より感謝を申し上げます。

現在ではご相談に迅速・丁寧な対応ができますよう、介護支援専門員2名を追加配置し5名体制で運営をしております。今後も地域に根差した地域包括支援センターを目指す所存でございますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



介護が必要になられても住み慣れた自宅、亀岡での暮らしを支える

居宅介護総合支援センター



◎創立60周年を迎えて 新たに

平成12年に始まった介護保険制度は少しずつ変わってきていますが、私たち介護支援専門員は、利用者様、ご家族様のご希望をお聞きしながら、心身の状態、生活環境などに考慮してケアプランを策定し、介護保険サービスなどのご利用のお手伝いをしてきました。

今後も利用者様、ご家族様の立場に立って、介護に対する不安や心配が解消され、安心して望まれる場所で生活を続けていただけるよう日々研鑽してまいります。

病気や障害があっても住み慣れた我が家で安心して生活できるよう支援します

訪問看護ステーション



◎想いを実現するために・・・

開設から20年を迎え、看護師10名、理学療法士3名、言語聴覚士1名で100名以上の利用者様のお宅を訪問させて頂いています。

ご本人やご家族様の想いを出来る限り尊重し、その人らしく生活していただけるよう温かい心で看護にあたるよう心掛けています。癌末期や終末期の方も、在宅で安心して療養し、穏やかな最期を迎えて頂けるよう看取りのサポートにも力を入れています。地域で一番信頼される訪問看護ステーションを目指したいと思っています。

ご縁に感謝、ありがとうございますが原動力です

訪問介護ステーション

◎利用者様の『笑顔』そのために私達は頑張ります

私達は、常勤・パート・登録合わせ総勢26名で、365日休む事無く活動しています。事務所の特色は10年以上の経験豊富なヘルパーが数多く在籍し、困難な業務も臨機応変に出来る事です。私達のモットーは、「人の心と身体に寄り添い、健気に働くこと」である。今後は、高い介護技術、倫理観をもって心情としてよりサービスの専門性を高め、地域で重度者や、認知高齢者を支えるための役割を担っていきたいと考えています。



利用者様も介護者も笑顔で過ごせる場所をめざして

はたごまちデイサービスセンター

◎「自分らしく」すごせるように

平成11年10月に亀岡病院デイサービスセンターとして開設し、平成25年4月に、はたごまちデイサービスセンターに事業所名を変更して、現在に至ります。

さまざまな介護度の方々が利用されることが特徴で、高い介護度の方でも「楽しみ」や「意欲」を持っていただけるように活動や行事を計画しています。

今後も在宅生活を支える一員として、1人でも多くの利用者様の笑顔のお手伝いができるよう、「安心・安全・安楽・信頼」を目標に頑張っていきたいと思っています。



利用者様一人一人に寄り添ったケア

しんまちデイサービスセンター

◎家庭的で楽しい雰囲気の中で過ごして頂く

当デイサービスセンターでは、看護師のもと、体調管理を行いながらレクリエーションに参加して頂いています。その中でもドライブと手芸が人気のレクリエーションです。季節行事や屋外レクリエーション・外食会等、利用者様により一層楽しんで頂けるよう、企画しています。

レクリエーションを通じて、利用者様間や職員とのコミュニケーションを図り、信頼関係を築けるよう心がけています。



この町で、私らしく生きていく。そして皆で繋がっていく

しんまち小規模多機能ホーム

◎いつまでも自宅で

しんまち小規模多機能ホームは平成27年5月20日に開設しました。「通い・訪問・宿泊」3つのサービスを生活スタイルに組み合わせ提供します。

利用者様の生活に寄り添うサービス提供により、慣れ親しんだ地域・お店・交友関係等が継続でき、介護が必要となっても自分らしく暮らしていくことを最大の目的としています。

また、当事業所には「介護予防拠点」を併設しており、地域住民皆様への多様な交流の場としてご利用いただける施設です。



住み慣れた街でいつまでも自分らしく、やさしさと元気に満ちた毎日を支えます

介護複合施設 けやき

介護複合施設けやきは平成16年に開設、デイサービス、ショートステイの2事業所で事業を開始しました。開設から11年が経過し地域のニーズの変化などに対応すべく、平成27年5月に施設を一部改修しグループホームを開設致しました。

現在は、デイサービス、ショートステイ、グループホームの3事業所で連携し、より質の高い介護サービスを提供できるよう日々考えながら事業所運営を行っております。

けやきデイサービス

◎利用者様本位のサービスを目指して

デイサービスでは、春秋に行う屋外レクリエーション、外食会、ドライブ喫茶等の外出の機会の確保や、書道展、塗り絵コンクールへの出展、おやつ作り、手工芸などの趣味活動、生活支援を通し利用者様が生活に楽しみや目標を持ち生きがいを感じながら生活が送れるように努力しております。



けやきショートステイ

◎心なごむひとときを

ショートステイでは普段は自宅で過ごされている利用者様が、介護者であるご家族様等の介護休養、用事などの為、一時的に自宅での介護が難しくなった時のご利用がほとんどです。利用者様の中には慣れない環境の中不安を感じられることが少なくありません。その不安を解消し皆様が安心して過ごせるよう、利用者様一人一人に向き合い心に寄り添った介護を提供し、ショートステイでの生活が在宅生活の中の自然な一コマになるよう日々励んでおります。

けやきグループホーム

◎その人らしさを大切に

グループホームでは、認知症に特化したケアを提供しており、自己表現、自己決定を最大限に尊重し、その人らしい生活が送れるよう日々意識しながら援助しております。また、地域との交流を大切にし、認知症の方々がいつまでも住み慣れた地域で自分らしく生活が継続できるよう、施設内での介護のみではなく、地域全体で認知症の方を見守れる環境の整備に少しでもお役にたてればと事業所の運営を行っております。



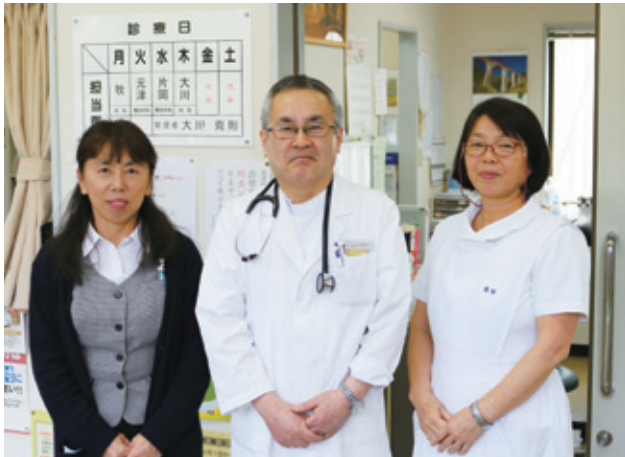
今後も介護複合施設けやきでは、地域の社会資源として地域に貢献し、ご利用者様がいつまでもこの住み慣れた街で元気に過ごせるよう良質な介護の提供を行ってまいります。

地域医療に尽力し、思いやりのある温かい心を！

別院診療所

◎信頼される診療所をめざしています

地域に密着した、特に在宅で過ごす患者様にはきめ細やかな診療サービスを実践していくことを心がけ、交通の不便なところのため送迎もしております。お気軽にご相談下さい。



笑顔と愛情溢れる介護サービスを提供します

べっいんデイケアセンター



◎地域と共に

笑顔と暖かな笑い声が溢れる地域に愛される場所を目指します。

当施設では、自宅での生活を一番のご希望と考えられる利用者様の思いに添った在宅生活ができるサポートをさせていただいています。心身の回復および悪化の防止を図り、ご自宅で安心して生活できるようリハビリ計画に基づいたサービスを提供します。

住み慣れた地域で安心した生活を

介護療養型老人保健施設 はたごまち

◎こころも体も穏やかに

2013年4月に介護療養型老人保健施設として入所様の援助に携わるようになりました。

介護療養型老人保健施設ということで医学的管理を必要とされる方の生活を支援させていただくこともあります。「ずっと前から亀岡病院に来ていたの。亀岡病院だから安心ね…」入所様やご家族様からの言葉を頂くたびに安心して過ごしていただけるように、これからも努めていきたいと思えます。



多様な業務を行い、利用者様のご要望やご相談に応じる

事務部

◎施設内の多職種及び、 病院、他施設との よりよい連携を目指して!!

当施設の事務所スタッフは、利用者様が気持ちよく過ごして頂けるよう、また施設職員が出来る限りスムーズに業務にあたるよう、いわゆる何でも屋を目指しています。

ご入所に関しては、まずこちらが窓口となっていますので何なりとご相談下さい。迅速な対応を心掛けてお受け致します。



専門スタッフによるサービスを提供し、
住み慣れた地域での生活を支援していきます

リハビリテーション科



◎快適な自分らしい日常生活を！

はたごまちリハビリテーション科は、理学療法士4名、作業療法士1名、言語聴覚士2名のリハビリテーションスタッフが、機能の維持や日常生活動作の向上を目的とし、利用者様各々の状態や目標に合わせたサービスを行っています。個別リハビリや集団リハビリ、認知症リハビリのほか、看護・介護と連携を図り、生活リハを中心にレクリエーション等も実施しています。自立を支援し、穏やかな療養生活が送れるよう目指していきます。

「新鮮な地元野菜を使った食事」の取り組みを始めました

栄養科

◎元気の出る食事づくりを目指して！

利用者様の生活の中で、お食事の楽しみは大きなものです。大量調理で画一的になりがちな施設食であり、また、制約のある治療制限食ですが、その中にも共にお楽しみがありますようにと日々の栄養管理の活動に工夫を重ねております。

私達は、老健「はたごまち」を含めて、法人の全ての介護施設のお食事を担当しております。

(株)たわわ朝霧さんのご協力をいただき、「新鮮な亀岡野菜を使った食事」を行っています。利用者様のお喜びの笑顔に接し、是非この機会を増やそうと気持ちを引き締めております。



年をとって、あきらめていた趣味や旅行、家庭での役割を再び獲得しましょう

はたごまち通所リハビリセンター

◎リハビリで人生を明るく！

はたごまち通所リハビリセンターでは、“現状維持”ではなく積極的に訓練を行い、動作能力を改善させることを一番に考えています。実際に、自宅で違って生活されていた方が自分で車を運転して買い物に行けるようになった等、多くの方にリハビリの成果が出ています。もし機能改善が見込めなくても、福祉用具の利用や効率の良い動作の習得によって、“できないことをできるように”することは可能です。まずはご相談ください。



◆ 亀岡病院の歩み

【平成18年～平成27年の出来事】

2008年	2007年	2006年
<p>2月6日</p> <p>● 大槻秧司理事長 厚生労働大臣表彰 (公衆衛生功労) 受章</p>	<p>7月1日</p> <p>● 別院診療所 べついでんデイケアセンター 開設</p> <p>● IDカードの導入</p> <p>● 亀岡病院広報誌「こだま」創刊号 発刊</p>	<p>2月3日</p> <p>● 創立50周年記念職員研修旅行 ゴールドコースト、シンガポール、濟州島、北海道、東北、草津、東京、吉本新喜劇</p> <p>4月17日</p> <p>● 創立50周年記念式典 「ガレリアかめおか」にて</p>
<p>10月1日</p> <p>● 郵政民営化がスタート</p>	<p>3月30日</p> <p>● 島津X線テレビ更新 (UD150 L-40型)</p> <p>9月1日</p> <p>● 禁煙外来開始</p>	<p>3月3日</p> <p>● 第1回WBC を開催。日本代表が優勝</p> <p>4月1日</p> <p>● 介護報酬改定</p>
	<p>● 報酬本体：\uparrow1.36%</p> <p>● 薬価等：\uparrow1.8%</p>	<p>● 施設：平均 \pm0%</p> <p>● 在宅：平均 \uparrow1.0%</p>



2013年	2012年	2011年
<p>12月1日</p> <p>● はたごまち通所リハビリテーションセンター 開設</p>	<p>3月8日</p> <p>● 新病院起工式 (安全祈願祭)</p> <p>6月9日</p> <p>● 社員総会・理事会にて、会長大槻秧司、理事長大槻克一と決定・任命</p>	<p>2月1日</p> <p>● 新病院建築委員会を発足</p> <p>● 既存病院の介護療養型老人保健施設はたごまちへの移行改修委員会を設置</p> <p>4月27日</p> <p>● 京都府より増床計画58床の許可</p> <p>9月26日</p> <p>● 新病院造成工事開始</p>
<p>5月1日</p> <p>● 電子カルテ導入</p> <p>11月30日</p> <p>● 介護療養型老人保健施設はたごまち竣工式ならびに内覧会</p>	<p>4月8日</p> <p>● 新病院 開設</p> <p>竣工式及び内覧会</p>	<p>3月11日</p> <p>● 東日本大震災発生</p>
<p>6月22日</p> <p>● 世界遺産に富士山が登録される</p> <p>9月8日</p> <p>● 2020年夏季五輪・パラリンピックの開催地が東京に決定</p>	<p>3月24日</p> <p>● 新病院 竣工式及び内覧会</p>	
	<p>● 報酬本体：1.55%</p> <p>● 薬価等：\uparrow1.38%</p>	<p>● 施設：0.2%</p> <p>● 在宅：1.0%</p>



● 3F 病棟	● (一)	● 50	● 58床
● 4F 病棟	● (医療療養)	● 46	● 50床

● 介護療養型老人保健施設	● はたごまち	● 開設	
● 介護療養型	● 44床	● 介護療養型老人保健施設	● 90床

2010年

2009年

3月20日

● 4列CTから
64列CT診断装置
(東芝 Aquilion 64)
に更新



5月2日

● 大槻袂司理事長 春の叙勲
瑞宝双光章受章伝達式 「府公館」

9月25～27日

● 日本医療機能評価機構
病院機能評価 受審



2月16日

● 日本医療機能評価機構
病院機能評価 認定書交付
(認定第JC1600号)

10月17日

● 職員旅行
北海道、
東京デイズリゾート、
飛騨高山、韓国、
越前、宝塚歌劇



2月1日

● コニカミノルタPACS(画像情報管理)
導入

8月1日

● 病床内容変更

・ A 病棟…(医療療養)	44	↓	46床
・ B 病棟…(介護療養)	52	↓	44床
・ C 病棟…(一般)	44	↓	50床

(計8床を変更)

2014年

〔平成26年〕

4月17日

● 広報誌「けやきだより」(10周年記念号) 発行

● 診療報酬改定
(0・10%)

● 報酬本体：0.73%

● 薬価等：▲0.63%

2015年

〔平成27年〕

4月1日

● 院長交代 細川了平院長就任、山崎英彰顧問就任

● 介護報酬改定
(▲2・27%)

4月15日

● 地域包括ケア病床推進委員会を設置

5月17日

● 地域密着型サービス事業所として、
けやきグループホーム
しんまち小規模多機能ホーム
しんまち介護予防拠点 開設

6月1日

● MRI導入(東芝1.5T
超電導磁石式MRI装置
Vantage Titan)



● 適正化：▲4.48%

● 処遇改善：1.65%

● その他加算：0.56%

9月27日

● 公開健康講座「心臓・脳血管・腹部の病気をMRIで早期発見しよう」
「ガレリアかめおか」にて開催
参加者232名



9月19日

● ラグビーW杯で、日本が南アフリカ共和国に歴史的勝利

● 亀岡市長選挙
桂川孝裕氏
初当選

2016年

〔平成28年〕

1月22日

● 創立60周年記念職員研修旅行
ハワイ、ローマ、シンガポール、
台湾、石垣島、金沢、USJ、丹後
病院創立60周年「こだま」記念増刊号
発行

4月14日

● 熊本地震発生

地域の皆様と共に60年・・・



Kameoka Hospital 60th Anniversary

創立60周年記念事業

- 日本医療機能評価機構の病院機能評価を受審及び、京都介護・福祉サービス第三者評価を受診し、医療法人 亀岡病院としての優れている点や改善すべき問題点、地域の皆様に信頼される病院・介護事業所を目指していきます。
- 平成28年10月2日に健康講座（生活習慣病と認知症予防）を開催予定です。
- 創立60周年を迎える年に、60年にわたって病院の職員と地域の人のとの強い結びつきを「60」で表した記念ロゴマークを作りました。
- 平成28年1月～7月にかけて、ローマ、ハワイ、シンガポール、台湾、石垣島、金沢、丹後への職員研修旅行を実施し、職員同士の親睦を深めます。

外来担当医表 (平成28年5月1日現在)

		月	火	水	木	金	土	
内科	午前 (9:00-12:00)	①診	細川	山崎	細川	山崎	山崎	牧①、 細川③⑤、 大川②④
		②診	循環器・糖尿外来 大槻亮一	循環器・糖尿外来 大槻亮一			大川	上田②④
		③診	高橋	牧	大川	牧	森	
		⑤診	大川	森		福島		
		⑦診		中島	森			
	夜間 (17:00-19:00)	山崎(①診)	大川(③診)	森(①診)	牧(③診)	布居(①診)		
	整形外科	午前 (9:00-12:00)	元津	元津	元津	元津	元津	岡田
	夜間 (17:00-19:00)	元津			元津			
脳神経外科	午前 (9:00-12:00)			大山(②診)	辻(②診)			
泌尿器科	午前 (9:00-12:00)			藤井(⑤診)				
腎不全外来	午後 (13:30-15:30)		藤井(⑤診)					
禁煙外来	午後 (13:00-14:00)	細川		細川				
眼科	午後 (13:30-16:00)				府立医大	担当医		
皮膚科	夜間 (17:00-19:00)					府立医大		

●受付時間

7:00～19:00
(初診の方は8:30より受付しております)

●受付手続き

午前・午後診療

▶午前7:00～午前8:30にお見えの方は受付窓口で番号札をお渡しします。

夜間診療

▶当日の午前8:30より、お電話でも受付しております。

※8:30～19:00まで、窓口にて受付しております。

初診の方

▶受付にあるメモに名前を記入し、クリップで止めて受付に置いてください。

再診の方

▶診察券にご希望の医師の番号札をクリップで止めて受付に置いてください。

●休診日

日曜・祝祭日および4月17日(創立記念日)、8月14日、12月30日～1月3日は全科休診いたします。学会出張等による臨時休診もあります。詳細は受付までお問い合わせください。

完全予約制

※数字①②などは、①:第1週 ②:第2週を意味します。



- JR亀岡駅下車、亀岡駅から南東へ徒歩約20分
- 京阪京都交通バス 亀岡病院前下車
- タクシー (駅前タクシー乗り場あり)

診療科目

内科、循環器内科、消化器内科、呼吸器内科、神経内科、腎臓内科、リウマチ科、整形外科、脳神経外科、リハビリテーション科、泌尿器科、皮膚科、眼科、放射線科

許可病床数

病床：108床 透析：20床

訪問サービス

訪問診療、訪問看護、訪問リハビリテーション
訪問薬剤管理指導、訪問栄養食事指導

スタッフ数

153名

関連施設

227名(関連施設スタッフ数)

- 介護療養型老人保健施設はたごまち TEL (0771) 25-2020 FAX (0771) 25-2121
- はたごまち通所リハビリセンター TEL (0771) 25-3377 FAX (0771) 25-2121
- 亀岡市地域包括支援センター かもおか TEL (0771) 29-5155 FAX (0771) 29-3220
- 居宅介護総合支援センター TEL (0771) 22-9210 FAX (0771) 29-3220
- 訪問看護ステーション TEL・FAX (0771) 25-8100
- 訪問介護ステーション TEL・FAX (0771) 25-6260
- しんまち小規模多機能ホーム TEL (0771) 22-0726 FAX (0771) 22-0727
- はたごまちデイサービスセンター TEL (0771) 23-6600 FAX (0771) 24-5805
- しんまちデイサービスセンター TEL・FAX (0771) 21-0210
- けやきデイサービスセンター TEL (0771) 22-9205 FAX (0771) 22-9222
- けやきショートステイセンター TEL (0771) 22-9206 FAX (0771) 22-9222
- けやきグループホーム TEL (0771) 22-9207 FAX (0771) 22-9222
- 別院診療所 TEL (0771) 27-8550 FAX (0771) 27-8555
- べついでんデイケアセンター TEL (0771) 27-8550 FAX (0771) 27-8555

かもおか病院だより こだま vol.23
発行/医療法人亀岡病院 編集/広報委員会
発行日/2016年5月 印刷/有限会社アクト
次号予告 次回の「かもおか病院だより こだま」
第24号は平成28年7月発行予定です

〒621-0815 京都府亀岡市古世町3丁目21番1号
E-mail kamekame@oak.ocn.ne.jp

TEL (0771) 22-0341(代)
FAX (0771) 22-4305

<http://www.kameokahp.com>

亀岡病院

検索